



一般社団法人ピースピースプロジェクト活動報告書 2019

Peace Piece Project Activity Report 2019



一般社団法人
ピースピースプロジェクト
代表理事

多田多延子

プロフィール

広島県広島市在住、
女性経営者。

お目にかかる方にしあわせに
なってほしいという願いを込
めて、365日ピンクの洋服を
着続けて今年で10年。

世界一ピンクを愛する Google
検索1位「ピンク社長®」。

反戦ではなく平和を創りたい
という想いを共有して世界平
和を実現するため、国内外で
平和を創る活動に熱心。

皆様、こんにちは。

世界一ピンクを愛するピンク社長こと多田多延子です。
皆様のあたたかい応援に感謝申し上げます。

ピンクを見るとしあわせになることが
色彩療法でも実証されています。

2009年世界一大きい折り鶴で

ギネス記録にチャレンジした日から

「お目にかかる方に幸せになって頂きたい」との
願いを込めて365日ピンクのお洋服を着て10年です。

ふるさと広島で世界平和会議を開催したいと思い
アメリカ・ハワイ・ロシア・フランス・イタリア・
モロッコ・ドバイ・インドなど

世界各国を訪問しました。

訪問先の国々で、私の着ているピンクのお洋服を見て
「わたしもピンクが大好きなのよ！」と満面の笑みで
話しかけてくださるたくさんの方にお逢いしました。

「ピンク」は国や地域、宗教や文化を超えて
人をしあわせにする力があるんだと感動いたしました。

昨年、ピンクでもっと世界にしあわせを

ふやしたいと思い、日本記念日協会に

4月4日「ピンクデー」を登録いただきました。

「あなたに」しあわせになって頂きたい」との願いを
込めて「プレゼントフォー（4）ユー」で、

ピンクを贈り、しあわせを分かち合う日です。

今年は「ピンクを愛する人のコミュニティ」

PINK.CLUBを設立致しました。

ピンクを通じて、世界にしあわせを増やし、

世界平和を実現して参ります。

ご賛同・ご参加頂けましたら嬉しいです。

- ・ ギネス記録保持「世界一大きい折り鶴」
- ・ 漫画「キセキのヒロシマ」を原作出版
ノーベル平和賞を受賞された第44代アメリカ大統領
バラク・オバマ氏に「著書を読んで感動した」とお礼状を賜る
- ・ 120か国500万人以上の女性経営者が加盟する
フランス発祥・世界女性企業家協会（FCEM）inロシアの
世界大会にてスピーカーを務める
- ・ 4月4日 Pink Day「ピンクを贈り、ピンクでしあわせを分かち合う日」制定
（一般社団法人日本記念日協会認定）
- ・ ピンクを愛する人のコミュニティ PINK.CLUBを設立

ピースピースプロジェクトのあゆみ (2009年~2019年4月)

ギネス記録・ 世界一大きい折り鶴にチャレンジ 2010年ギネス記録認定

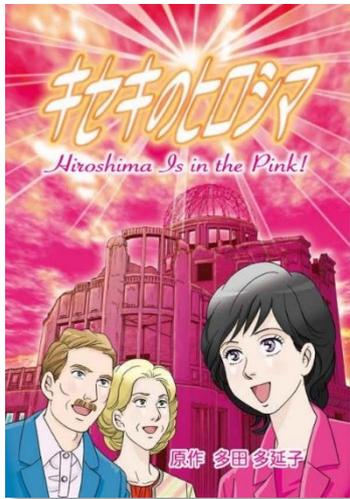
2009年、延べ800名以上で巨大折り鶴に挑戦。
1トンの紙で両翼81.94m、高さ36m。
2010年ギネス記録認定いただきました。



2020ヒロシマ・オリンピック招致活動

オリンピックの開催を通じ、広島から世界に
“愛と平和”のメッセージを配信するために
実施した署名活動。603,186名の署名を集め、
広島市長に提出することができました。

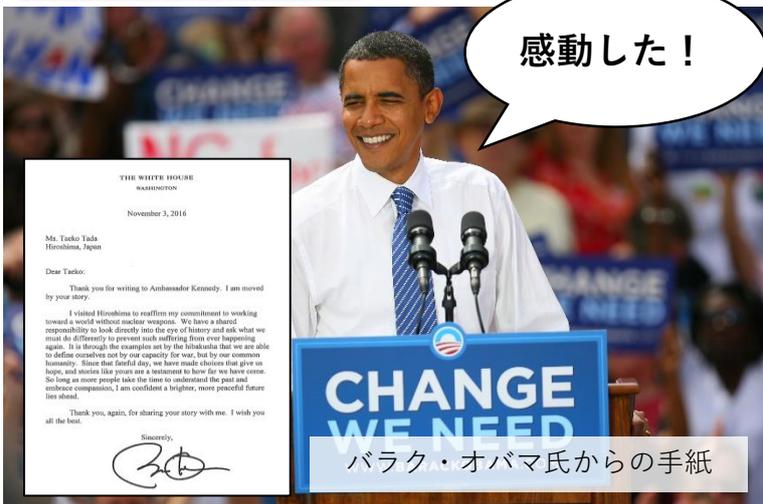
漫画「キセキのヒロシマ」(日本語・英語) 原作出版



広島には、年間30万人の子ども達が平和学習のために訪れています。
世界平和を創るためには、原爆被害の大きさだけでなく
復興の史実を伝え、反戦ではなく平和の創り方を学ぶことが重要です。

戦後70年を機に、ヒロシマ復興の実話を基に、
平和の大切さと恕(ゆる)す心を世界に伝える
漫画「キセキのヒロシマ」(日本語・英語)を原作出版しました。

教育機関に1,000冊を上限に無料貸出を行っており、
日本国内、海外で平和学習に活用いただいております。
また、「キセキのヒロシマ」をテーマにした講演も各地で行っております。





NPO法人セブンスピリット支援



フィリピン・セブ島のスラムの子ども達



マザー・テレサ写真展 スピーチ



マザー・テレサ出生国 マケドニア共和国



FCEM世界大会参加



ローマ、ニューヨーク



広島ハワイ次世代 ビジネスリーダーズ・プログラム講演



ハワイ



FCEM世界大会スピーカー



ロシア



子ども達との平和学習



日本

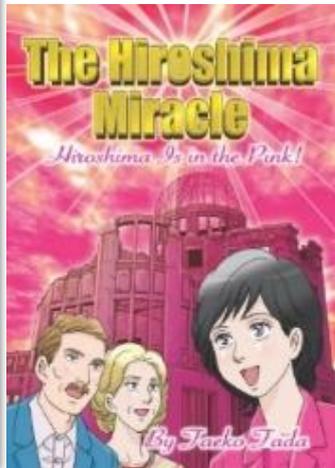
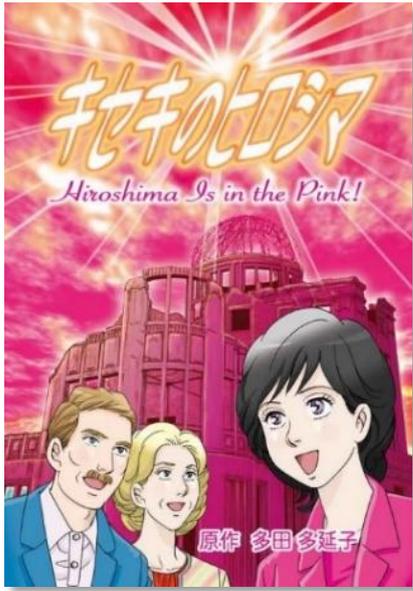
4月4日ピンクデー制定 PINK.CLUB事業部設立 & 世界各国で支部 設立



4/4 Present for you Pink Day Pink.Club
The day we give pink presents and share happiness

ヒロシマ復興から世界平和の創り方を学ぶ

漫画「キセキのヒロシマ」 原作 多田多延子



漫画「キセキのヒロシマ」、英語版”The Hiroshima Miracle

子ども達が世界平和の創り方を学ぶきっかけとなるよう、「復興」の実話を基に原作。

壊滅的な状況の中でも憎んだり恨んだりせず、前を向いて見事復興を遂げたヒロシマの女性達の怒(ゆる)す※心を描いた。※怒す(forgive)とは、思いやりの心で罪や過ちをゆるすという意味。

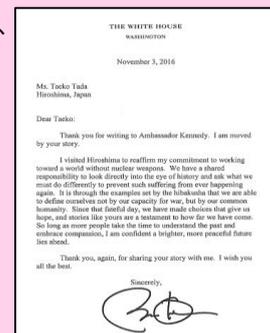
山口県下関市全ての小・中学校72校で活用頂く等、今までとは違う前向きな平和教育の形として評価を受けている。



ノーベル平和賞受賞 第44代アメリカ大統領 バラク・オバマ氏 キセキのヒロシマを読んで感動!

私はあなたの物語に感動しました。私は核兵器のない世界の実現への取り組みを再確認するために、広島を訪問しました。私たちは、歴史を直視し、こうした悲劇を二度と再び繰り返さない様に、私たちが何をすべきかを自問するという共通の責任があります。被爆者によって設定された例を通して、私たちは戦争の力ではなく、共通の人間性によって自分自身を定義することができます。あの運命の日から、私たちは希望をもたらす選択もしてきました。あなたの物語は、私たちがどこまで来たかの証です。

より多くの人々が過去を理解し、思いやりを抱く時間があれば、より明るい、より平和な将来が待ち受けていると確信しています。あなたの物語を私と共有してくれてありがとう。あなたの人生に幸あれ。 敬具 バラク・オバマ



←オバマ氏
サイン入りお礼状

平和を創る子ども達を育てる輪を広げたい

漫画「キセキのヒロシマ」原作者 多田多延子

私の祖母は原爆投下のその日に原爆で亡くなりました。22歳でした。母と曾祖母は爆心地から1.5キロ時点で被爆しましたが、奇跡的に生きられました。家屋や財産、全てを失いましたが、女性起業家だった曾祖母は、母を育てながら事業を再生し、地域社会に貢献し続けました。曾祖母の姿を見て、私も「社会に役立つ起業家になりたい！」と志しました。



幼少期の多田(原作者)と曾祖母

10歳の時、交通事故による脳内出血で生死の境をさまよいましたが、奇跡的に2週間で退院致しました。生かされている感謝を形に表すため、社会に役立つ起業家を目指す事を決意しました。

高校時代、平和記念公園に訪れた国内外の学生達に平和を伝えるボランティア活動を通じて、ヒロシマでの平和教育は原爆の被害の大きさを伝えるだけになっているのではないかと疑問を持つようになりました。世界平和を創るためには、原爆被害の大きさだけでなく復興の史実を伝え、反戦ではなく平和の創り方を学ぶことの重要性を痛感しました。

曾祖母や祖母、母の実話を基に、漫画「キセキのヒロシマ」を原作出版致しました。子ども達と学習していく中で、小学校6年生の男の子が「戦争は止めるものでなく、始めない事だ」と感想をくださり、じ〜んと胸に込み上げるものがありました。このような想いを持つ子ども達を1人でも多く育てたいという想いで、漫画「キセキのヒロシマ」を無料貸出し、平和を創る子ども達を育てる活動を広げております。ご賛同いただき、活動にご参加・応援いただけましたら光栄です。子ども達の未来が愛と平和に満ち溢れた世界になりますように。

多田多延子



左から曾祖母、原作者、母



広島平和記念資料館ご案内

世界各国の寄贈・活用実績

【著名人】

- ・ノーベル平和賞受賞 第44代アメリカ大統領 バラク・オバマ様
- ・キャロライン・ケネディ元駐日米国大使
- ・アラブ首長国連邦王族関係者 アリ・アル・マダニ様
- ・アリババグループ 孫炯副総裁
- ・フィリピン共和国大使館 デリア・D・アルバート大使
- ・インド大使館 クリパル・シン・ビシュット一等書記官
- ・世界女性企業家協会(FCEM) 世界代表 マリー・クリスティーヌ・オグリ様 他多数



オバマ様妹君
ハワイ大学 平和学研究者
マヤ・カッサンドラ・ストロ様



モナコ公国プリンセス
キャサリン・コロナ・
デ・ステイリアーノ様



マケドニア共和国特命全権大使
アンドリヤナ・
ツヴェトコビッチ大使

【学校・教育機関など】

- ・国立国会図書館、広島市内全小・中・高校216校図書館、平和記念資料館、広島市内の図書館12館
- ・山口県 下関市全ての小・中学校 72校、幟町小学校(広島)、中島小学校(広島)、朝日塾小学校(岡山)、半田小学校(愛知)
- ・広島市経済環境局観光政策部 (※修学旅行生の平和学習資料として600冊)
- ・公益財団法人放射線影響研究所
- ・保育ルームなちゅなちゅ(東京)
- ・パリ インターナショナルスクール、EIBビクターヒューゴスクール (フランス・パリ)
- ・マゴソスクール (ケニア孤児院) 他多数



NPO法人グローブジャングル
くっくま孤児院(カンボジア)



NPO法人セブンスピリット(フィリピンセブ島)

漫画「キセキのヒロシマ」 無料貸出

漫画「キセキのヒロシマ」冊子版の**無料貸出**を行っております。

【対象】 日本全国の小学校～大学、
塾などの教育機関

【貸出冊数】 10冊～1,000冊

【申込方法】 メールまたはFAXにて

Mail : peace_piece@tsp-cg.com

FAX : (082)253-0548

※一般向けにはインターネットにて販売
「キセキのヒロシマ」で検索



↑ 冊子版 漫画「キセキのヒロシマ」



小学校の先生のご感想

漫画だから分かりやすい

<愛媛県小学校教師・女性>

修学旅行に行く前、児童と
広島や原爆のことについて学習しました。
従来の授業では、戦後から現在までの
近代史がすっぽりと抜けてしまっていま
したが。

「キセキのヒロシマ」で、
復興を通して戦後の人々の生き方に
触れ、児童達の刺激になった様です。
小学生の児童達に、
暗いイメージだけを残すのではなく、
その後の人々の強さが伝わるように、
私も勉強します。
学校で活用させていただきます。

広島への修学旅行の事前学習 として活用

<岡山県小学校教師・男性>

教室と広島をつなぐ授業をしたいと思い、
国語科・表現科・総合科の合科として
「キセキのヒロシマ」を利用しました。
マンガということで、
読み始めのハードルが低かったです。
『平和の砦』という国語科の教材と
広島への修学旅行の事前学習として
活用できたことから、
例年と比べ主体的に活動に
取り組んでいました。
原作者ご本人にも顔を出していただき、
子供たちの記憶に
深く刻まれたと思います。

漫画「キセキのヒロシマ」を読まれた 下関市の小学校5年生から中学校2年生の感想

前向きで強い心をもちたい

私は、この本を読んで、生きる大切さについて知りました。私は、広島に原爆が落とされたことを知ってアメリカを恨んでいました。なのに、広島の人達は、アメリカのことを恨むことなく、前向きで、一生懸命生きていました。また、強い心をもって生きることに心を至りました。その場面を見て、私は、国や人を恨むよりも、強い心をもって一生懸命生きることが大切なんだな、と思いました。また、この本を読んで、「前に向かって歩きなさい。憎しみという荷物を背負っていたら、その分重くて、前に向かって歩けないからね」という言葉に感動しました。その言葉から、強い心を持つている人になりたいと思いました。ずっと憎しみが続いても意味がない、未来をみている、と思っていたんだと思います。今は、とても平和だけれど、これから戦争が起こるかもしれない。広島をたいに原爆が落とされたりして、みんなを殺してしまったりかもしれない。そんな時のために、私は、広島の人をたいに前向きで強い心をもちたいです。そして、人を憎んだりせず、これから自分は、どうしていくべきか、どうすればいいのかわかると考えて生きていきたいです。



誰かではなく私達が平和を築いていく

生きていることの大切さが伝わりました。そして、ヒロシマのことがよく分かりました。私は、ひばくした人々が一生懸命生きようとしているのが伝わりました。私は、命がとて大切なこと、原子爆弾で、たくさんの人々が命を落としたことが伝わりました。平和なことがどれほど尊いものなのか分かりました。誰かが平和を築いていくのではなく、私たちが築いていくのがいいと思います。

原爆ドーム



戦争は憎んでも、人や国を憎まない

私が心に残ったところは、「戦争は憎んでも、人や国は憎んではいけない」というところです。人や国を憎んでも始まらないという意味にとれて、とても感動しました。私たち6年生は、修学旅行で長崎に行きました。長崎は、広島と同じく原子爆弾を落とされた場所です。原爆資料館や平和祈念公園に行き、戦争の犠牲者の命の犠牲、平和の大切さを学びました。もう絶対に戦争を起こしてはいけないと思いました。「キセキのヒロシマ」の国や国は憎んではいけないというところを読んだとき、私は、長崎には戦争は二度と起こしてはいけないというのにはあんなに感動した。原爆を落としたアメリカは悪いというものはなかつた。私たちの心の中にも戦争はいやだと思える心はあつた。国を憎む気持ちはない。気が付きました。この世代の人たちの気持ちが受けつかるのだと思います。戦争は起こしてはいけないものだと改めて思い、平和への感謝がいっそう強くなりました。



言葉遣いを直して友達を大切に

ぼくは、この本を読んで、友達を大切にするのは大事なことだと改めて思いました。原爆が落とされ自分の命が第一になる中、おはあさんが赤ちゃんを抱えていたので橋を先におらせて上げてくれたり、協力して焼けこした人を助けていたり、いろいろな所で人を大切にしている所がありました。ぼくは、「かま」とか「死ね」とかをよく使ってしまうけど、この本の言葉を読んでいくとそのようなことはいけません。なので、これから、言わないように気を付けよう。



前向きな気持ちを持って何事にも打ち勝っていく

キセキのヒロシマを読まれ、
小学校6年生が描いたイラスト

私は、タエコが3歳の時にひいおばあちゃん、^{おば}巴は、
平和とは何かを聞いて、巴は、タエコさんとひいおばあちゃん
がこうして、綺麗な空を眺めながら、ゆっくりお話しする
時間...、それが平和だと言っている場面が、すごく好きで、
そう考えると、今は、戦争の時などに比べて、とても平和
です。でも戦争がない今でも、差別があったり、いろいろな
いじめが世界中であって、苦しんでいる人がたくさんいます。
この本を読くと、どんな辛いことや悲しいことがあっても、
前向きな気持ちを持って、何事にも打ち勝っていくという
自信や勇気などのアドバイスのようなものを教えてくださって、
読んだ人の気持ちを変えてくれるようなお話しだったなあと
思いました。この本を読めてとても良かったです。



「何がおこったとしても他の人を憎まず、
前を向いて幸せな人生を歩いていきなさい！」のシーンが大好き！

My favorite scene is when Taeko
and her mother talking and Taeko's
mother said that, no matter what
happens, you won't hate other people
you'll move forward and make
your life a happy one!. I like
it very much.

Maria Melinda

Illustrations are also welcome!

 A small illustration of three children sitting together and talking.


フィリピン・セブ島の
ストリートチルドレンの子どもの感想



講演・スピーチ・ワークショップ等実績

マケドニア共和国「マザーテレサ記念館」主催 マザー・テレサ写真展、パイロットインターナショナル日本ディストリクト、公益社団法人経済同友会「同友クラブ」、L.B.A.女性企業家協会、広島経済活性化推進倶楽部、一般財団法人お好み焼きアカデミー、東京都倫理法人会港区、東京都倫理法人会中央区、上野倫理法人会、KKC、広島東南ロータリークラブ、広島安佐ロータリー、広島ハワイ友好提携締結20周年記念 第1回広島ハワイ次世代ビジネスリーダーズ・プログラム（ハワイ州・ホノルル日本人商工会議所、広島県・広島商工会議所主催）、世界女性企業家協会(FCEM)世界大会 inロシア 等 他多数



マザー・テレサ写真展スピーチ



セブ島のストリートチルドレンに
KOKUYOのピンクの文具をお届け



アメリカ合衆国 ワンヴォイスチルドレンの子ども達と

世界女性企業家協会（FCEM）への参加・スピーチ

【FCEMとは】

フランス発祥で1945年に設立され、74年の歴史を持つ女性企業家協会。ヨーロッパ諸国と5大陸120か国以上に広がり、500万人の女性経営者が加盟している。フランス産業を代表する初代女性CEOイヴォンヌ・フォイナン氏が創設し、2017年ローラ・フラーティ・グッチ氏が会長を務めた。

- ・ ローマ、ロシア、全米女性経営者協会（NAWBO）主催の世界大会inニューヨークに日本メンバーとして参加



ロシアにてスピーカーを務めた



FCEM世界代表マリー・オグリ氏と



ロシア サクトペテルブルクの学生



Quantum Leaps
ヴァージニア・リトルジョン氏



IEEW 創業者
テリー・ネイス氏



イタリア ローマにて



ロシア モスクワにて

PINK.CLUBについて

PINK.CLUB（ピンクドットクラブ）は、ピンクを愛する人のコミュニティです



【事業部設立】2019年4月4日 ※ピンクデー

【理念】ピンクを通じた事業・産業創造、イベント開催、記念日制定・普及により、世界を幸せで満たすことで、世界平和を実現し次世代へと継承します



4月4日ピンクデー制定

ピンクを贈り、しあわせを分かち合う日

- ・一般社団法人日本記念日協会登録
- ・商標登録6097685号「Pink Day®」

広島での世界平和会議開催を目指し、各国を訪問する中で、国籍や宗教、性別を問わずピンクを見て笑顔になるたくさんの方々と出会い、ピンクでもっと世界を笑顔にしたいという願いから制定。

「贈る」「あなたのために」の Present for you から4月4日を記念日とした。

【PINK.CLUBがこれから目指す事業、プロジェクト】

Netflix ドキュメンタリー映画

What is your Pink?



カンヌ映画祭出品

あなたにとってのピンクとは？
ピンク社長®が世界中で
ピンクをテーマにインタビュー！



ピンクのアート展
in ニューヨーク 開催



ピンクツアー 主催

世界各国のピンクを訪ねるツアー



ピンクアワード開催

社会をしあわせにする活動を
された個人・団体・企業を表彰

環境部門、経済部門、
教育部門、女性の活躍部門など

BEST
PINK



PINK.CLUBは、国連が掲げる持続可能な開発目標(SDGs)についても事業を通じて取り組んでまいります。

PINK.CLUBさくら募金プロジェクト

2018年7月6日、西日本に大きな被害をもたらした記録的豪雨による災害「西日本豪雨災害」により被災された小学校、中学校270校にピンクの桜を贈り、復興を応援し続けるプロジェクトです。

第1回募金期間：2019年4月4日～11月30日

植樹期間：2019年12月初旬より順次

応援方法：

- ①インターネットによる募金
<https://pink.club/sakura/donate>
- ②店頭募金
- ③ポスター・チラシの
掲示・配布等の啓発活動



平成30年7月、記録的豪雨による災害「西日本豪雨災害」により、たくさんの方が被災されました。今なお仮設住宅で暮らす方もたくさんいらっしゃいます。昭和20年8月6日、ヒロシマ原爆投下により約14万人が亡くなりましたが、焼け原となった広島で、広島の女性たちは桜の樹を植え復興を願い、成し遂げました。現在、爆心地から2kmにある比治山では、1300本の桜がピンクの美しい景色を生み出しています。4月4日ピンクデーから始まるPINK.CLUBさくら募金プロジェクトで、ピンクの桜の樹を被災地の小学校、中学校に贈り、被災地の復興を応援し続けます。一緒に復興を応援しましょう。



鮮やかなピンクの桜



復興の象徴・広島の市電と桜

西日本豪雨災害とは

平成30年7月6日、西日本に大きな被害をもたらした記録的豪雨による災害。

- ・被災された小学校、中学校
18道府県で270校以上 (H30.7.16文部科学省集計)
- ・死者224名、負傷者456名、全壊住家 6,758棟



屋内外や道路に土砂が堆積し救助や復興の妨げとなった

2016年3月、“The Hiroshima Miracle”（英語版「キセキのヒロシマ」）を出版した際には、ジャパントイムスや共同ニュース等、海外メディアに掲載いただいた。



Manga seeks to counter gloomy stereotypes Hiroshima survival one of joy, artist says

May Masangkay
Hiroshima
KYODO

The horror in post-bombing Hiroshima is captured in black-and-white photos of the city and its beleaguered survivors.

But Taeko Tada, whose mother survived the U.S. atomic bombing at the age of 5, has a different take on the tragedy. Her self-published manga focuses on the happier faces of women who let go of their pain, decided to forgive and helped to rebuild the city.

“The Hiroshima Miracle: Hiroshima is in the Pink!” uses the color pink on its cover to depict the hibakusha experience as one of hope and joy.

“I wanted people to know more of the brighter side of Hiroshima, that this city is in the pink and filled with happiness as a result of efforts by women like my great-grandmother to rebuild the city after the atomic bomb,” said Tada, 47, a representative of the Hiroshima-based Peace Piece Project.

“Hiroshima is not just an atomic-bombed city with a sad history but also with a story of rising above the tragedy. I wanted to retell the stories of women who struggled and played key roles in reconstruction efforts and how women forgave and helped each other.”

Tada’s great-grandmother lost her daughter-in-law at age 56 due to the effects of the atomic bomb and raised Tada’s mother alone.

Tada released the manga in Japanese in five booklets last year, to mark 70 years since the end of World War II. It was printed in English in March and will be available on iBooks.

The book was sent to American Ambassador Caroline Kennedy, who in April wrote a letter of thanks. Kennedy said a copy will be sent to Washington.

In her letter, Kennedy said she was “deeply moved” by her visits to Hiroshima and Nagasaki, and said she hopes the visits will “help to advance President (Barack) Obama’s goal of realizing a world without nuclear weapons.”

Tada said she was “very



Taeko Tada holds a copy of the manga she wrote about women who survived the atomic bombing, seen on May 25. KYODO

“touched” by Obama’s speech during his historic visit Friday to Hiroshima as the first sitting U.S. president to do so, especially since he mentioned a story about forgiveness, a theme that reverberates in her manga.

In his address, Obama spoke of a woman who forgave the pilot who flew the plane that dropped the bomb “because she recognized what she really hated was war itself.”

Tada’s 172-page book features her great-grandmother’s ordeal in the aftermath of the bombing. Tada said she was very young when her great-grandmother died but vividly recalls her inspiring words about how it is better to forgive than to be stuck in the past.

The manga also features the story of a mother who cheered on a struggling baseball team in Hiroshima in honor of her son and a woman who was known

as one of the “Hiroshima Maidens” invited to the United States for reconstructive surgery.

Recounting her experience in high school, Tada said she was shocked when, as a volunteer guide for foreign visitors, she was asked if the people in Hiroshima still hated Americans.

“(The) atomic bombing is a serious subject and sometimes discourages people to come here. People feel heavy after touring through the Peace Memorial Park and other atomic bomb-related sites,” she said.

She said her manga received positive feedback from atomic bomb survivors, who thanked her for sharing sentiments they could not quite articulate.

“We cannot live in the past. We cannot change what happened,” Tada said. Her message is to live toward the future: “This is the Hiroshima I want people to know.”

Not a subscriber? See options available. >

18:08 28 May 2016
FEATURE: Women’s resilience takes the stage in manga of A-bomb survivor’s kin

By May Masangkay
HIROSHIMA, May 28, Kyodo



The horrors of the world’s first atomic bombing in Hiroshima are often captured in black and white photos of the devastated western Japan city and images of survivors’ scars.

But Taeko Tada, whose mother survived the U.S. atomic bombing on Aug. 6, 1945, at the age of 5, has a different take on the tragedy, as her self-published manga focuses on the happier faces of women who let go of their pain, decided to forgive and helped rebuild the city.

In her book entitled “The Hiroshima Miracle: Hiroshima is in the Pink!” Tada, 47, uses the color pink on its cover and title to reflect her desire to depict the atomic-bomb survivors’ tales as one that brings hope and joy to people. Pink is her favorite color which represents joy.



To have fuller access to the Kyodo News website, it is necessary to subscribe. We offer a broad range of subscription options depending on your needs. Learn more.

Manga shows Hiroshima survival as one of joy

HIROSHIMA - The horror in post-bombing Hiroshima is captured in black-and-white photos of the city and its beleaguered survivors.

But Taeko Tada, whose mother survived the U.S. atomic bombing at the age of 5, has a different take on the tragedy. Her self-published manga focuses on the happier faces of women who let go of their pain, decided to forgive and helped to rebuild the city.

“The Hiroshima Miracle: Hiroshima is in the Pink!” uses the color pink on its cover to depict the hibakusha experience as one of hope and joy.

“I wanted people to know more of the brighter side of Hiroshima, that this city is in the pink and filled with happiness as a result of efforts by women like my great-grandmother to rebuild the city after the atomic bomb,” said Tada, 47, a representative of the Hiroshima-based Peace Piece Project.

“Hiroshima is not just an atomic-bombed city with a sad history but also with a story of rising above the tragedy. I wanted to retell the stories of women who struggled and played key roles in reconstruction efforts and how women forgave and helped each other.”

Tada’s great-grandmother lost her daughter-in-law at age 56 due to the effects of the atomic bomb and raised Tada’s mother alone.

Tada released the manga in Japanese in five booklets last year, to mark 70 years since the end of World War II. It was printed in English in March and will be available on iBooks.

The book was sent to American Ambassador Caroline Kennedy, who in April wrote a letter of thanks. Kennedy said a copy will be sent to Washington.

In her letter, Kennedy said she was “deeply moved” by her visits to Hiroshima and Nagasaki, and said she hopes the visits will “help to advance President (Barack) Obama’s goal of realizing a world without nuclear weapons.”

Tada said she was “very touched” by Obama’s speech during his historic visit Friday to Hiroshima as the first sitting U.S. president to do so, especially since he mentioned a story about forgiveness, a theme that reverberates in her manga.

In his address, Obama spoke of a woman who forgave the pilot who flew the plane that dropped the bomb “because she recognized what she really hated was war itself.”

Tada’s 172-page book features her great-grandmother’s ordeal in the aftermath of the bombing. Tada said she was very young when her great-grandmother died but vividly recalls her inspiring words about how it is better to forgive than to be stuck in the past.

The manga also features the story of a mother who cheered on a struggling baseball team in Hiroshima in honor of her son and a woman who was known as one of the “Hiroshima Maidens” invited to the United States for reconstructive surgery.

Recounting her experience in high school, Tada said she was shocked when, as a volunteer guide for foreign visitors, she was asked if the people in Hiroshima still hated Americans.

“(The) atomic bombing is a serious subject and sometimes discourages people to come here. People feel heavy after touring through the Peace Memorial Park and other atomic bomb-related sites,” she said.

She said her manga received positive feedback from atomic bomb survivors, who thanked her for sharing sentiments they could not quite articulate.

ピースピースプロジェクトへのご支援について

一般社団法人ピースピースプロジェクトの利益は、日本国内・海外で平和を創る子ども達を育てる活動や社会をしあわせにされている活動へのチャリティや支援に役立てます。

下記のご支援の中で、ご自身に合った応援方法をお選びください。

①漫画「キセキのヒロシマ」のご購入による応援

Yahooショッピングで本を購入いただいたり、Kindle等の電子書籍をダウンロードしていただくことで応援いただけます。

②PINK.CLUBさくら募金プロジェクトの応援

ポスターやチラシなどの配布による啓発活動や、インターネットや店頭での募金にて応援いただけます。詳しくは<https://pink.club/sakura/>をご覧ください

③活動費ご支援による応援

下記口座に支援いただけると、子ども達との平和教育、西日本豪雨災害などの被災地の支援、日本国内・海外での講演や平和を創る勉強会などの活動に役立てます。

<郵便振替・銀行振込によるご寄付方法>

初めてお振込みにてご寄付いただく方は、お手数料をおかけしますが下記まで、お名前、ご住所をお知らせください。ご連絡のない場合は、ニュースレターやお礼のご連絡をお送りすることができませんので、ご了承ください。

<一般社団法人ピースピースプロジェクト>

Tel : 082-253-0693 (平日9:00~18:00)

Email: info@pink.club

【銀行名】 ゆうちょ銀行

【店名】 五一八 (ゴイチハチ) 店 【店番】 518

【預金種目】 普通預金 【口座番号】 1973847

【口座名義】 シャ) ピースピースプロジェクト

※お振込み控えをもって領収書とさせていただきます。

※郵便局からの送金の場合

【記号】 15120 【番号】 19738471

【名義】 一般社団法人ピースピースプロジェクト

<クレジットカードでのご寄付方法>

下記PINK.CLUBのホームページからお手続きをお願い致します。

<https://pink.club/donation>

Peace Piece Project Activity Report 2019

一般社団法人ピースピースプロジェクトの目標

1. 漫画「キセキのヒロシマ」を世界の小学校の副読本にして、反戦ではなく平和を創る子ども達を育てる輪を広げます
2. ピンクを愛する人のコミュニティ「PINK.CLUB」を運営し、社会のしあわせに貢献する企業を表彰します
3. ピンクを通じた事業・産業創造、イベント開催、記念日制定・普及により、世界をしあわせで満たすことで、世界平和を実現し次世代へと継承します

活動報告メールマガジン登録



一般社団法人ピースピースプロジェクト（英語表記 Peace Piece Project）

- 【代表理事】 多田 多延子（ただ たえこ）
【法人設立】 2015年7月15日 ※2009年5月より活動、2015年7月法人化
【所在地】 広島市南区出汐1-17-25
【電話番号】 (082)253-0693 (FAX:(082)253-0548)
【営業時間】 平日9時00分～18時00分
【メールアドレス】 info@pink.club
【ホームページ】 <https://pink.club> <http://ppp.holy.jp>

